

気象の発生が心配される。今回のような気象状況が予想される場合には、特に注意深く見守っていききたい。

### 5. あとがき

この調査をやってみて、たつまきのようなきわめて局地的で寿命の短い気象現象の実態を、正確につかむことの困難さを痛感した。

海上のたつまきについては、これまで、被害を伴わない限り積極的に記録されなかったことと思われ、各県災異誌や異常気象報告等にも記載が少ない。しかし、新聞切り抜き等にはまだ埋もれた資料がたくさんあることであろう。九州・山口各県の方々の御指摘を待ってより正確なリストを作りたいと思う。

最後に、この調査に当って資料の収集その他でお世話になった、新潟地方気象台柴山予報課長、津林主任技術専門官、富山地方気象台世古予報官、福岡管区気象台諸富防災気象官、小島調査官、菊地技官、長田技官および下関地方気象台の永山防災業務課長、脇田予報官に謝意を表します。

### 文 献

Fujita, T.T. *et al.*, 1972: Typhoon-Associated Tornadoes in Japan and New Evidence of Suction Vortices in a Tornado near Tokyo,

*J. Met. Soc. Japan.*, **50**, 5 431-453

藤田哲也, 1973: たつまき一渦の驚異 (上), 共立出版社.

深谷慎二郎・一木文三, 1971: 昭和46年8月23日久留米市を襲ったたつまきについて, 技術通信, **17**, 9, 255-258.

福岡管区気象台調査課, 1960: 九州および山口県のたつまき資料, 技術通信, **6**, 1, 24-49.

島山久尚編, 1966: 防災科学シリーズ I, 気象災害, 118.

平野 博, 1968: 九州の地形性降雨について, 技術通信, **14**, 10, 370-374.

木ノ脇秀哉・脇田哲雄, 1970: 宮崎県に発生した“たつまき”について, 研究時報, **22**, 6, 299-304.

森 茂善・小島隆義, 1969: 台風第6816号に伴ったたつまきについて, 福岡管区研究会誌, **30**, 181-184.

岡田英士, 1960: たつまきのエコーについて, 技術通信, **6**, 3, 17-26.

瀬戸恒鋭・村山武夫, 1973: 昭和47年11月14日, 日向市美々津町で発生したたつまきについて, 技術通信, **19**, 2, 47-50.

島田守家, 1967: 1955~1964年における日本のたつまき, 研究時報, **19**, 1, 1-22.

館 知之, 1947: 富山県泊沖に発生する海上竜巻について, 北陸気象研究会, 1947年5月.

原田 朗著



## 大気のパックグラウンド汚染

共立出版 (環境科学叢書), 1973, 141p, 780円

近年、地球とその大気の熱的・力学的均衡は、どうやら非常に微妙なものであり、人間による不用意の環境汚染が、場合によってはとりかえしのつかない気候変化も引き起こしかねないという懸念が、多くの人々によって指摘あるいは支持されるようになった。国際的には、1970年の SCEP (Study of Critical Environmental Problem) 会議や、1971年の SMIC (Study of Man's Impact on Climate) 会議等の諸活動、およびこれらを支えている広範な研究活動がその状況をよく物語っている。

一口で言うならば、本書はこのような最近の諸活動の成果や問題意識を、大気の大規模な汚染の実態という問題に力点をおきつつ、全体的な視野のもとに解説したものである。内容は大気のパックグラウンド汚染の実

態、高層大気のパックグラウンド汚染、汚染物質の総生産量とその予測、バックグラウンド汚染の観測および研究活動の四章からなり、各要素による汚染状況の実態とその環境問題における意味 (かかわり方) から最近の研究活動までが、大変読みやすくまとめられている。はしがきに、いたずらに将来にむかって警鐘をうちならすのではなく、現時点でわかっていることを出来るだけ客観的に記述することに心がけたという意味のことが書かれているが、本書の持つ説得力はこのような執筆態度によるところが大きいといえよう。

多くの人々がこの本を読まれることをおすすめしたい。  
(田中正之)